

北実会の皆様(6/24 メール配信)

北実会 太田

印西市長、白井市長の本日の北総株主総会での発言に対し北総鉄道は運賃値下げの検討に着手すると明言いたしました。

頑なに拒否してきた重い扉が漸く開こうとするところまで来ました。総会后、板倉市長は北実会の皆様の前でこれはまさに住民の皆様のおかげのものであるとおっしゃり我々の活動をたたえてくれました。値下げになればこの千葉ニュータウンはもっと素晴らしい地域になると言っていました。

市長も北総総会では過去何度も値下げの発言をしていただきましたし、今年の1月には京成電鉄小林社長が印西市長を表敬訪問するまでになっていました。

また今日、宮川衆院議員より電話がありまして、先日熊谷知事が北総運賃について室谷北総社長に電話をして質したところ、値下げ検討の回答があったとのことでした。

1か月前に北実会は県交通政策課を訪問し、北総総会には県から運賃値下げを強く求めていただきたいと要請したことも働いたかもしれません。また県議会で北総運賃について議員が質問したとも聞いています。県、市、住民(北実会)が値下げにうまく回り始めたと言うべきでしょうか。期待したいと思います。

しかし値下げ幅、値下げ時期、まだ何も決まっていません。これからが正念場です。是非皆さん、引きつづき力を合わせてがんばっていきましょう。

北総線高運賃問題について興味をお持ちの皆さんへ(6/24 朝発信)

北実会事務局の間嶋です

昨日(6/23)、北総株主総会前で例年通り宣伝行動を行いました。

総会に臨む株主(首長)の皆様を激励する意味と、北総への抗議の意味です。

その総会で値下げを迫る印西市長に対し「値下げを検討する」趣旨の答弁をしたようです。

記者さんには、2時にプレスリリースと漏らし、HPを開いてみると添付の北総決算発表でした。

確かにこれまで「値下げができるかを検討する」という発言は、公式にはありません。

その意味では、累積損失があと2年で消失すると自ら認めていたり、運動が線路使用料の仕組みを暴いてきたことが定着しつつあることなどにより、県をはじめとする沿線自治体が黙っていなくなるなど、

客観的には値下げを口に出さざるを得ないところまで追い込まれてきたということでしょう。

額も時も示さず、「値下げできるか否か検討する」というのは少しでも時間稼ぎをしたいということの表れでしょう。

値下げを実現するのはこれからの運動次第ということでしょう。

今日の宣伝行動は、これまでにない規模で行われましたので、逃げは許さないという意味で貴重な行動になったと思います。

6/29の京成株主総会にも抗議に参りましょう。